

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

戻る

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-23 人の暮らし と海洋生物 資源	20130587019701	●人の暮らし と海洋生物資 源Ⅱ(生物か ら見た水産 業)	和	E	河邊 玲	1年,2年,3年,4年	後期	火 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-23 人の暮らし と海洋生物 資源	20130587020101	●人の暮らし と海洋生物資 源Ⅱ(人から 見た水産業)	和	E	高山 久 明	1年,2年,3年,4年	後期	月 4	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-23 人の暮らし と海洋生物 資源	20130587020501	●人の暮らし と海洋生物資 源Ⅱ(海洋の 生物と科学)	和	E	阪倉 良 孝	1年,2年,3年,4年	前期	火 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-23 人の暮らし と海洋生物 資源	20130587020901	●人の暮らし と海洋生物資 源Ⅱ(海洋食 料資源の応 用)	和	E	市川 寿	1年,2年,3年,4年	後期	月 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール Ⅱ科目-23 人の暮らし と海洋生物 資源	20130587021301	●人の暮らし と海洋生物資 源Ⅱ(海洋環 境と保全)	和	E	鈴木 利 一	1年,2年,3年,4年	前期	月 3	～

戻る



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールⅡ科目-23 人の暮らしと海洋生物資源**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587019701	科目番号	05870197
授業科目名	●人の暮らしと海洋生物資源Ⅱ(生物から見た水産業)		
編集担当教員	河邊 玲		
授業担当教員名(科目責任者)	河邊 玲		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	河邊 玲,天野 雅男,松下 吉樹		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-11		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	kawabe@		
担当教員研究室	環東シナ海環境資源研究センター		
担当教員TEL	850-5042		
担当教員オフィスアワー	講義の後、1時間		
授業のねらい	海洋は生物、鉱物、エネルギーなどの様々な資源の宝庫ですが、環境共生型の社会を実現するためには、これらの貴重な資源を有効に利用し、持続的に維持していく必要があります。漁業には、生物資源の特性を理解し、適切に管理し、効率的に漁獲をすることが求められる一方で、漁獲対象とならない希少種を保護する 責任も求められています。本講義では、海洋生態系と漁業活動の基礎的な相互作用について、理解することを目的とします。		
授業方法（学習指導法）	生物の行動や生態の解析、個体群や生態系の特性を明らかにする方法、さらにその結果を漁業に活かしつつ、希少種を保護する方法について、最新の研究結果を含めて解説します。		
授業到達目標	海洋生物の視点から見た漁業について基礎から応用まで多面的に学習することにより、生態系を保全しつつ持続可能な漁業を実現するためには何をすべきかを考える能力を身につけましょう。		
授業内容	（１）現代の漁業（1～5回）：松下吉樹 ・日本の漁業と世界の漁業 ・海洋生物資源の持続的な利用と漁業の管理手法 ・問題解決のための技術的アプローチ （２）漁獲対象生物と混獲される希少種（6～10回）：天野雅男 ・海洋生態系の特徴 ・海洋動物の個体群と生活史の特徴 ・生物資源としての海棲哺乳類：管理・保全・倫理 （３）行動情報を用いた海洋生物資源の管理と保全（11～15回）：河邊 玲 ・バイオロギング ・漁獲対象生物の行動情報と漁業への利用 ・希少海洋動物の行動情報と混獲回避策の検討 単元毎に、レポート課題、発表を課し、16回目に最終試験（評価と指導）を実施して、科学技術が自然に及ぼす影響や効果を理解し考察する能力が養われているか、確認します。		

キーワード	漁業管理、生活史・生態学的特性、行動、混獲、バイオリギング
教科書・教材・参考書	適宜、関連の論文等を講義資料として配付する
成績評価の方法・基準等	成績評価の方法：授業への参加状況、レポート課題、発表による総合評価 成績評価基準：総合評価点が60点以上を合格とする
受講要件（履修条件）	第1回講義時に受講要領（履修条件、成績評価等）を配布・説明する
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	・海洋の環境・生態系と人間活動の基礎的な相互作用について理解し、説明することができる ・科学技術が自然に及ぼす影響や効果を理解し考察できる
備考（URL）	
備考（準備学習等）	・海と海の生物に深い関心があり、主体的な学習意欲を持つ方を歓迎します。 ・授業内容を良く理解するためには、高校卒業程度の理科に関する知識を持っていることが好ましい。





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールⅡ科目-23 人の暮らしと海洋生物資源**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587020101	科目番号	05870201
授業科目名	●人の暮らしと海洋生物資源Ⅱ(人から見た水産業)		
編集担当教員	高山 久明		
授業担当教員名(科目責任者)	高山 久明		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高山 久明,山口 恭弘,山本 尚俊		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	医歯工環		
担当教員Eメールアドレス	ayutrap@nagasaki-u.ac.jp ;:kyumei@ ;:nao-yama@		
担当教員研究室	水産学部本館（1F-山口）、同（3F-高山）、水産学部新々館(2F-山本)		
担当教員TEL	山口(2809)、高山(2809)、山本(2802)		
担当教員オフィスアワー	授業後の在室時、時間随時		
授業のねらい	漁船と漁具・漁法には安全性、効率性、環境への配慮が、漁獲と価値形成には流通や経済の視点が欠かせません。これらを切り口に、対象生物が生息する海洋生態系から少なくとも縄文時代以降、ヒトのみに付与された道具作成能力の結果として漁具・漁船に関係する歴史と現状、産業としての観点からの経済学的視点を総括して話題を提供します。高等学校での生物、物理、公民がかかわり深い。		
授業方法（学習指導法）	当日の話題のポイントを提示後、パワーポイントや板書で講義を進める。講義中には複数回質問し、その回答を自己のノートに記載あるいは発言させ、それらを含め講義を組み立てる（山口）。プレゼンと板書を併用した講義法。講義資料は必要に応じて配布予定（高山、山本）。		
授業到達目標	関心を持った領域の歴史と技術的背景から現状を理解し、将来を見据えることができる。		
授業内容	担当の各教員（山口、高山、山本）が、各5回ずつを受け持ち実施する。 1. 地球・月の成り立ちからヒトの出現まで 2. 人類、ヒトの定義とその2つの特性による他者との差別化 3. 水産・漁業の定義、道具の発明・発達から野生生物獲得技術の確立 4. ヒトの知恵と漁具の体系 5. 責任ある漁業(responsible fishery) 6. 船・造船の歴史と技術の発達 7. 航海・航海計器の歴史と技術の発達 8. 漁船漁業発達の歴史 9. 現代の漁船漁業と漁業資源 10. 近未来の漁船漁業と資源管理の展望 11. 水産資源の特徴と利用ーコモنزの悲劇と管理の重要性 12. 環境問題と「食」 13. 資源問題と「食」 14. 技術革新とその功罪 15. 資源・環境との共生のもとで成り立つ我々の「食と社会」		

キーワード	人間・水産・漁業・道具・船と航海・漁船漁業・資源と環境・食糧問題・持続性
教科書・教材・参考書	特に定めない。教科書は必要に応じ講義中に紹介する。また必要に応じプリント配布を行う。
成績評価の方法・基準等	毎回のアクティブラーニングシート(30%)と課題レポート(70%)への取り組み姿勢（山口）。各回講義への積極的な参加姿勢及びレポート等を総合的に評価する（高山、山本）。
受講要件（履修条件）	特にないが、講義に積極的に参画し、出された課題に真摯に取り組めること。
本科目の位置づけ	人の暮らしと関わりが深い海洋における水産業に関し、主として人から見た側面にスポットを当て、ヒトから始まった人類英知の今日までの歴史と発展を知り、 今日巨大化された産業が人類の生存に不可欠な「食」との関わりにおいて、将来に亘って、自然環境、資源との共生を図ることの必要性和理解を促す点にある。
学習・教育目標	人から見た水産業の本講義を受講することにより、これらの基礎的知識得るとともに自主的探求を深め、その歴史、現状理解から将来を展望できる能力を養成する。
備考（URL）	
備考（準備学習等）	特にないが、漁協、漁業者、生物などをキーワードとして予め書籍やインターネット閲覧をしておくことが望ましい。





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールⅡ科目-23 人の暮らしと海洋生物資源**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587020501	科目番号	05870205
授業科目名	●人の暮らしと海洋生物資源Ⅱ(海洋の生物と科学)		
編集担当教員	阪倉 良孝		
授業担当教員名(科目責任者)	阪倉 良孝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	阪倉 良孝, 征矢野 清, 萩原 篤志		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	医学部、歯学部、工学部、環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	sakakura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	水産増殖学研究室（総合教育研究棟4階）		
担当教員TEL	095-819-2823（直通）		
担当教員オフィスアワー	火曜日 5校時		
授業のねらい	海洋生物資源の生産・培養に関する原理や方法などについて、現代社会における実課題例を交えながら学ぶ。このように、海洋と海洋生物の科学について基礎から応用まで多面的に学習することにより、幅広い教養と共に、環境と調和した持続可能な社会を実現するためには何をすべきかを考える能力を身につける。		
授業方法（学習指導法）	基本的に座学であるが、レポート、アンケートをとりながらの双方向の授業を目指す。		
授業到達目標	海の生物と人との関わりを理解する。		
授業内容	第1回：ガイダンス、本講義の狙いについて概説（阪倉） 第2回～第6回：魚類の繁殖生態と養殖業への応用（征矢野） 第7回～第11回：動物プランクトンの多様性とそれらの養殖業への応用（萩原） 第12回～第14回：魚類の初期生活史と養殖業（阪倉） 第15回：期末試験の講評（阪倉）		
キーワード	多様性・プランクトン・魚類・繁殖・生態・養殖		
教科書・教材・参考書			
成績評価の方法・基準等	レポート、期末試験（70％） 授業への参加状況（30％） 合計で60％以上を取れた者に単位認定をする。		
受講要件（履修条件）	「人の暮らしと海洋生物資源」モジュールⅠを受講・単位修得していることが望ましい。		
本科目の位置づけ	「人の暮らしと海洋生物資源」モジュールⅠとの接続		
学習・教育目標	・海の生物と人との関わりを理解する ・教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす ・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける		

備考（URL）	
備考（準備学習等）	





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールⅡ科目-23 人の暮らしと海洋生物資源**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587020901	科目番号	05870209
授業科目名	●人の暮らしと海洋生物資源Ⅱ(海洋食料資源の応用)		
編集担当教員	市川 寿		
授業担当教員名(科目責任者)	市川 寿		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	市川 寿,濱田 友貴,谷山 茂人		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）	2年次		
担当教員Eメールアドレス	ichinon@（市川）, yuhamada@（濱田）, tshigeto@（谷山）		
担当教員研究室	水産学部 新館2階（市川、濱田）、新館3階（谷山）		
担当教員TEL	819-2845（市川）、-2854（濱田）、-2842（谷山）		
担当教員オフィスアワー	授業の前後		
授業のねらい	どのような食品をどのくらい私たちは摂取する必要があるのかを知った上で、水産食品（マリンフード）の成分とそれらの変化、マリンフードの多彩さとそれらの製造方法、さらには衛生管理,安全確保に関わる諸問題を理解し、食にまつわる今日的な課題にどう対処したら良いかを考えることができる素養を身につける。		
授業方法（学習指導法）	歴史的変遷と現代的なトピックスを踏まえ、食糧に関わる基本事項を学修できるよう配慮する。最終段階では、問題の所在について自ら調査発表し、ディスカッションを行う方法でコミュニケーション能力を涵養させる。		
授業到達目標	海洋食糧資源に関わる基本的な事項を、相互に啓発しながら学び、他者とのコミュニケーションを図って深め、また伝達する能力を獲得する。自主的に取り組む能力や思考方法を身につけ、学修事項を基にして意欲的に社会貢献できるようになることを期待する。		
授業内容	回	内容	
	1	食物の機能と、食に求められるものの変遷	
	2	食品の基本成分 1	
	3	食品の基本成分 2	
	4	食品成分の変化 1	
	5	食品成分の変化 2	
	6	食品の安全性 1	
	7	食品の安全性 2	
	8	マリンフードの特性 1	
	9	マリンフードの特性 2	
	10	マリンフードの設計	
	11	マリンフードの製造	
	12		

		海洋食糧資源分野のトピックス 1
	13	海洋食糧資源分野のトピックス 2
	14	海洋食糧資源分野のトピックス 3
	15	課題発表とディスカッション 1
	16	課題発表とディスカッション 2
キーワード	食品機能、食品成分とその変化、安全性、海洋食糧資源	
教科書・教材・参考書	参考書；食品化学-目で見える食品成分とその変化-（高野克己 他、三共出版、2005、4-7827-0509-3），基礎から学ぶ食品科学（渡邊悦生 他、成山堂書店、2010、4-425-89001-9），食品衛生学第三版（山中英明 他、恒星社厚生閣、2012、4-7699-1268-2），水産食品学（須山三千三 他、恒星社厚生閣、1987、4-7699-0592-9）	
成績評価の方法・基準等	小テスト、レポート、発表及びディスカッション状況を評価する。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	生存の制限条件である食品について、基本的な機能を理解すると共に、多様なマリンフードを主な例として製造，衛生管理・安全確保に関する諸問題を学修し、自らの食習慣や食にまつわる今日的な課題に対処できる素養を身につける。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		





タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールⅡ科目-23 人の暮らしと海洋生物資源**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587021301	科目番号	05870213
授業科目名	●人の暮らしと海洋生物資源Ⅱ(海洋環境と保全)		
編集担当教員	鈴木 利一		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 利一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 利一,SATUITO CYRIL GLENN,玉置 昭夫		
科目分類	全学モジュールⅡ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	医学部、歯学部、工学部、環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	tsuzuki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	水産学部本館2階		
担当教員TEL	095-819-2821		
担当教員オフィスアワー	授業の直後		
授業のねらい	本授業では、①浮游生物、②底生生物、③付着生物の3つの視点から海洋環境と保全について講義を行う予定である。 ①では、浮游生物と環境との関係を中心に講義し、水柱中の食物連鎖や生物過程を通して海洋保全の考え方や実例を解説する。②では、有明海から天草灘に至る 海域に分布する干潟を例にとり、そこに生息する底生生物群集とそれを取り巻く沿岸生態系を健全に維持することが、地域住民にどのようなサービスをもたらすのかについて講義する。③では、付着生物の生態と海洋における人間活動への影響について学び、付着生物による被害と対策の歴史、現状および問題点について 海洋保全の観点から説明する。		
授業方法（学習指導法）	水産学部に所属する3名の教員がオムニバスで授業を進めて行きます。講義形式で行う予定ですが、可能であれば、実習・演習様式を取り入れて進める場合もあります。		
授業到達目標	受講生が沿岸環境に親しみをもち、保全の意義を自ら考えるようになること。また、人の暮らしと海洋生物資源について、海洋環境と保全の視点から説明出来るようになること。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション、3名の担当教員の紹介、講義の概要についての説明、浮游生物（プランクトン）とは何か？ どのようなものがあるか？（鈴木）	
	2	植物プランクトンと海洋環境（光、栄養塩、水温、鉛直混合）との関係（鈴木）	
	3	赤潮の発生メカニズムと対策案、青潮・富栄養化・貧酸素水塊とプランクトン生態との関係、小テスト（鈴木）	
	4	動物プランクトンの摂餌と物質の転送について（鈴木）	
	5	プランクトンの食物連鎖構造と漁獲量について、プランクトンの栄養階層と生物濃縮について、小テスト（鈴木）	
	6	底生生物（ベントス）とは何か？（玉置）	
	7	ベントスはどこにどのように棲み、何をどのように食べているのか？（玉置）	

授業内容	8	干潟ベントスによる環境改変：砂泥の性質をどのように変え、干潟の浄化機能をどのように強めているのか（玉置）
	9	干潟ベントスの生活史：浮遊幼生はどのように親元から広がり、どのように干潟に戻ってくるのか（玉置）
	10	干潟と沿岸環境の保全：複数の干潟に棲むベントスのネットワークに着目して意義と方策を考える、小テスト（玉置）
	11	付着生物とは何か？（サトイト）
	12	付着生物の繁殖と幼生の拡散：付着生物はどのように子孫を残すのか？（サトイト）
	13	幼生の付着：幼生はどのように付着場所を決めるのか？（サトイト）
	14	汚損生物：人間にとって厄介な付着生物（サトイト）
	15	防汚対策と環境：防汚対策技術が環境に与える影響を考える、小テスト（サトイト）
	16	なし
キーワード	底生生物、付着生物、浮游生物、沿岸環境	
教科書・教材・参考書	資料が必要な場合は、適宜配布します。	
成績評価の方法・基準等	授業への参加状況（２０％）、小テスト（８０％）	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ	本科目は、後期に開講される「人の暮らしと海洋生物資源」（海とは何か？～海洋生態系の現状と課題～）」と連携しています。	
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		

